

金曜コラム - 「進撃の国家」と 88 オリンピック

ジョン・ユンス (スポーツ評論家・聖公会大教授)

京郷新聞はなんと全 9 巻 3800 ページ分量の「第 5 共和国全史」を確保したというので、私はすぐにでも編集局を訪ねたかった。もしかしたら、新聞社の中にお願ひできる人でもないかと考えてもみた。法廷闘争まで行い 1 年 5 ヶ月ぶりに確保した「全史」を、恥を忍んでコピーをするか、または夜通し筆写でもするつもりだった。ところが「全史」ではなく「前史」であったことを後で知った。(訳注：全史も前史もハングルでは同じ表記) 第 5 共和国の全体史ではなく、第 5 共和国が樹立されるまでの記録だということだ。なんと。

もちろん、それ自体として膨大な記録だ。10・26 殺害事件(訳注：1979 年 10 月 26 日にソウルで朴正熙大統領と警護室長が金載圭中央情報部部長によって殺害された事件)と 12・12 事態(訳注：1979 年 12 月 12 日に起きた軍内部の反乱事件。全斗煥、盧泰愚など中心に起こしたクーデター)そして何よりも、5・18 光州抗争に関する重要な人物の歴史的責任と刑事的罪責を問うことができるからである。ただし、実際に「全史」だったとすれば最近の私の集中的な興味、すなわち 88 ソウルオリンピックでの第 5 共和国首脳部のイデオロギーを実体のまま見ることができるのではないか、気になった。

(訳注：第五共和国で全斗煥政権は 1988 年開催のオリンピックをソウルへ招致したことで外交的な成功を収めたと言われる)

88 オリンピックの中心行為者の企画と執行が重要な理由は、この驚異的なスポーツスペクタクルの既存の理解は、いわゆる「3S 政策(訳注：コラムの最後に解説しました)」規模だからである。各種プロスポーツと、特に 88 オリンピックというメガイベントは、特定の局面の打開戦術程度ではない。国家はそんなに守勢的、防御的ではない。特に非常に積極的な独裁政権が権力を不当に奪って国のハンドルを握ることになると、その瞬間から国家は暴走する。

5・16(訳注：1961 年 5 月 16 日、当時少将だった朴正熙などが軍事革命委員会の名の下、起こした軍事クーデター)がそうだった 12・12 がそうだった。権力を握った軍部は議会やマスコミなどのブレーキ装置を除去してしまって、瞬く間に進撃する。ほぼ 1 年前後で政治と行政の中心を握るだけでなく、全国民を一挙に動員することができるほどの強力なイデオロギーを展開して、巨大な文化統治戦略を駆使する。

スペクタクル文化統治という面では、第 5 共和国という進撃の国家は 88 オリンピックを企画し、それを「汎国民的」として執行して、最終的にその責任者が「6 共和国」の大統領になる結末に強力に自己調整をしてみた。政治学界では、1987 年の民主化運動と、その年の大統領選挙の結果を、グラムシが言った「受動的革命(訳注：Passive Revolution)」という視点から分析する場合があるが、その問題の設定が大きく見て妥当であれば、私は 88 オリンピックこそ国家権力の強力な受動的革命のエンジンだったと思う。

ここで必ず加えなければならない判断根拠は、極端な政治とスポーツスペクタクルシンドロームの間に広く広がり始めた 1980 年代の中産階級の文化だ。緊迫した政治情勢とやや無関係に、1980 年代には 3 低好況(訳注：低油価、低金利、ドル安の時期に 3 年連続 11%以上の成長をした)と内需消費活況の中で、カーTV とマイカーと外食に代表される中産階級文化の拡散過程であった。その頂点はもちろんマンションだ。

この経済、文化の条件で進撃の国家が、なびく 88 オリンピックという旗に従って「汎国民」である中産階級の欲望の行列が長く続いた。このようにあまねく見回すと、88 オリンピックを「3s 政策」と呼ぶのは、事実のほんの一部を指すだけである。

いつのまにか 88 オリンピック 30 周年となった。偶然にも最近の私は、これらの興味に刺激を与える作業を見ることになった。スポーツ専門記者ウィ・ウォンソクは 1978 年の世界射撃選手権大会を前後した朴正熙大統領とその頃のスポーツ権力者たちの記録を通じて、88 オリンピックがつまずく第 3 共和国の濃いめ息の中で、すでに企画されていたことを明らかにしている。金ウンヨンや朴セジクの伝記はもちろん、全斗煥と盧泰愚の回顧録も参照しているが、この記録の史料的価値の検証はさらに必要だが、とにかく、1980 年代前後の混乱の中で、権力首脳部がオリンピックをどのように眺め見たのか調べることができる。権力の中心が指向するものと、その言語を検討したが決してオリンピックは「3s」のような単純なポリシーではない。

ウィ・ウォンソクが参照したように、ホ・ジンソクや朴ジェグが書いた論文もオリンピックを特定の政治勢力ではなく、国家権力そのものの動作原理の中からアプローチしており興味深い。88 オリンピックを社会的側面から研究してきた朴ヘナムも国家権力がスポーツファンよりもはるかにスポーツを大事にしていることを明らかにしてきた。彼が長年の研究をまとめ、88 オリンピックの政治・社会的性格を論文にしたというので読んでみたい。

しかし、もしこのような関心を難しい資料や論文に頼らず、ただ楽に 57 分ほど画面で確認したい場合は、今すぐインターネットを検索すればよい。KBS スポーツ局の李テウンディレクターが制作したドキュメンタリー<88/18>だ。去る 9 月 16 日に放映されたが、88 オリンピックも 1988 年 9 月 17 日に開幕したので、正確に 30 周年である。

なんと 15 テラバイト (TB) 分量の KBS 映像資料をもとに、まず 40 時間を選び抜き、再度約 57 分に積極的な編集と演出をした作品である。<天下壮士万々歳> <空間と圧迫> <数字のゲーム>などのユニークな「作家主義的」観点の快作を作った李テウンディレクターは「1980 年代の韓国社会で社会、経済、政治、文化のすべての面でオリンピックが関連していない部分がない」との判断でこの作品を作った。TV ドキュメンタリーの公式とも言える絶え間ないナレーションや誇張された効果音一つなく、ひたすら当時の放送画面と 88 オリンピックに直接関与した人々のインタビューだけでつないでいるが、その形式自体が興味深い。このドキュメンタリーは、ホ・ファピョン（訳注：許和平、全斗煥元大統領の左腕）から始まって彼のコメントに終わる。ドキュメンタリーの終わりに彼は言う。「88 オリンピックは全斗煥政権にとって、いやでも、そして絶対そのような考えが無かったのに、平和的政権交代をするように導いた。」まあ、いくつかの角度の資料と解析がさらに必要だが、少なくともそれ以上「3s 政策」のような言葉でスポーツスペクタクルを判断することは不十分で怠惰なものであることを確認する「第五共和国実勢」の証言である。

*この記事は 2018 年 10 月 8 日京郷新聞[ジョン・ユンスのオフサイド]に掲載された文章で、筆者の許可を得て共有のために掲載します。

<訳注：3s 政策>

1980 年代全斗煥政権時代、すなわち第 5 共和国のときに施行された愚民化政策を当て付け表現でよく使われる言葉。もともとはアメリカの日本占領期当時の日本の全体主義、軍国主義脱皮のために GHQ が意図的に行った政策に由来する。3S は S で始まる三つの言葉でスクリーン (Screen)、スポーツ (Sports)、

セックス (Sex) の頭文字を取ったもの。

01 スポーツソウル 2018. 10. 23 【 胸の痛む体育国政監査 】

歴史は事実 (fact) ではなく史実 (historical fact) だという卓見は響きのある教訓を示唆します。歴史には明らかに解釈が加味されるということです。fact を時代精神に基づいて評価し、そこにビジョンを込めたのがすなわち歴史です。歴史についての激しい省察と苦悶なしには明るい未来が担保されないというのもそのためです。歴史意識の貧困、前政権に比べて改善するどころか退行している韓国スポーツ界の最大の問題点です。

「ろうそく市民革命」で誕生したムン・ジェイン政権にスポーツ界がかける期待は大きかったです。チェ・スンシルの国政壟断が体育から始まり、朴槿恵政権の厳しい体育弾圧は圧縮成長の時代を思い浮かべる官治体育の典型を見せたからです。しかし、新政権が発足しても体育は別段変わりませんでした。嘘のように、むしろより後退して乱れたというのが共通した見解です。

逆行している体育の現状は国政監査でもそのまま現れています。核心を避けた国政監査はそうだとでも狡猾な競技人や利権と結託した疑似メディア、そして専門性のない政治家が手を握った不条理な行動は、三流国会の真の姿をそのまま見せているようで、残念でなりません。

政権交代後に行われた積弊清算の重要な分野である体育が、国政監査で国民から後ろ指をさされているのは、果たして偶然でしょうか？体育国政監査が期待を捨てて遠回りばかりしているのにはそれなりの理由があります。体育の問題が本質を無視したまま政治と陣営の論理という色眼鏡を通して投射されているからです。積弊清算責任がある与党は、遅々として進まないこの問題を持ち出すのが面映ゆく、第1野党も原罪を抱えているので下手に乗り出せないでいる様子です。

体育の積弊清算が他の分野よりも遅々として進まない最大の理由は政府にあります。チェ・スンシルの国政壟断が始まった体育で一番大きな責任は文化体育観光部にあるという事実は、誰もが共感するところです。もし文体部が積弊清算に積極的なスタンスを取ったなら、少なくとも今のような状況は起こらなかつたでしょう。組織利己主義に捕らわれた彼らは積弊を隠蔽して清算処理に消極的にならざるを得ませんでした。今回の体育国政監査は、スポーツ界に山積した主要な問題を処理できる良い機会でした。改革が切実だった国技院、大韓サッカー協会の問題が地上波の時事告発番組で相次いで放映されたが、どういうわけか国政監査は関連当事者の証人として採用することもできませんでした。国民は「味気ない国政監査」に落胆しました。政権交代後、積弊を選別するゴールデンタイムを逃してしまい、体育はごちゃごちゃにもつれました。前政権に賦役していた人たちが素早い粉飾をして改革勢力に変身することも多々ありました。さらに積弊が正義の仮面をかぶって偽善の仮面劇を演出するために、専門性のない国会議員まで動員される「笑えるけど悲しい」現実韓国体育の将来に黒い影だけを落とすことになりました。

正しい歴史意識を土台にした充実した体育国政監査が切実な今、期待は水の泡になっています。国政監査無用論は昨日や今日の事ではありませんが、少なくとも悪貨が良貨を駆逐するのは防がなければなりません。歴史が政治と理念そして陣営のフレームに閉じ込められると、それは悲劇です。今体育が正にその場面です。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=468&aid=0000438241>

02 KBS ニュース 2018.10.23

【体育会、接待ゴルフに組織私物化の議論... '総体的不良'】

【アンカー】

今日の国政監査では大韓体育会のずさんな運営がまな板に上がりました。

李ギフン体育会長の接待ゴルフが警察の捜査に拡大する兆しに加え、組織私物化論議まで浮上しました金キボム記者が報道します。

【レポート】

昨年の夏、李ギフン体育会会長は元高官らと数回、江原道のゴルフ場で豪華接待ゴルフを打ちました。

【金ヨンジュ／共に民主党議員／文体委員：「大韓体育会会長が直接予約して、政官界の関係者と一緒にしたという事だけで疑いを受けるしかありません。金ヨンラン法に違反すると思います、公企業社長であるので】

【李ギフン／大韓体育会会長：「(仏教信者) 信徒会の常任顧問委員長などの会長が親睦も図って運動もしようと言って…」】

警察は接待ゴルフの違法性について捜査を積極的に検討すると明らかにしました。

接待ゴルフの名簿には大韓体育会の未来企画委員会の初代委員長である李クィナム前法務部長官も含まれています。

当時、この委員会にはスポーツの専門家よりは元政官界人が大勢含まれており、政界ロビーのための軍事組織ではないかという批判が高かったです。

懸念が現実に見れたわけです。

プール盗撮波紋と飲酒暴行などで汚された鎮川選手村事件も、専門性と距離が遠い体育会の人事乱脈から始まった副作用だという叱咤を受けました。(訳注：水泳男子代表選手が鎮川選手村内で女子更衣室に隠しカメラを設置して数年間撮影したという衝撃的な事件。2016年8月)

【金ジェウォン／自由韓国党委員／文体委員：「毎晩、酒盛りがあつて大変ですよ。選手村長は熊狩りとかして、これは何ですか、一体】

【ハン・ソンギョ／自由韓国党委員／文体委員：「選手村の副村長として慈乗僧侶(訳注：元曹溪宗総務院長)の兄弟を持ってきて座らせたでしょう？これが体育会ですか？」】

エリートスポーツと生活体育を統合して発足3年目を迎える統合体育会が総体的不良で国民的な叱責を受けています。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=056&aid=0010632606>

03 MK スポーツ 2018.10.26

【スケート ジョン・ミョンギョ時代の終焉... 政権変わっても続いた浮き沈み】

ジョン・ミョンギョ(55)スケート競技連盟元副会長のスポーツ行政経歴が実質的に終わりました。韓国体育大学体育学科の教授職も維持できるかどうか不透明です。

国会文化体育観光委員会は23日、大韓体育会などの文化体育観光部所管の公共機関や関係機関の2018年度国政監査を実施しました。証人として出席したジョン・ミョンギョ元副会長は、今後どのような大韓スケート競技連盟の役職も引き受けないと明らかにしました。

韓国体育大学は国立大学です。ジョン・ミョンギユ元副会長は、国政監査証人の身分だけでなく、現役の教育公務員であるからこそ、偽りを言えば法的責任を負わなければならない状況です。4回の体育勲章は免罪符にできません。

さらに、2018 平昌冬季オリンピック女子ショートトラック代表の主将シム・ソクヒ（21）が大会準備の間に代表コーチに少なくとも 3 回以上の常習的な殴打を受けた事件にジョン・ミョンギユ元副会長は、その指導者に加えた成績圧迫が決定的だった状況が 23 日の国政監査で明らかになりました。

文化体育観光部が 5 月 23 日に発表した大韓スケート競技連盟の特定監査結果にない内容なので追加調査が避けられません。処罰の可能性も生じたジョン・ミョンギユ元副会長が、スケート独裁者の権力の座を取り戻すことは不可能に見えます。

2018 年度の国政監査を通じて与党の共に民主党と野党第 1 党の自由韓国党は激しく対立しています。このような状況であるため、23 日の国政監査の現場はやや新鮮でした。

共に民主党所属のアン・ミンソク（52）文化体育観光委員長と自由韓国党ハン・ソンギョ（59）と正しい未来党の金スミン（32）国会議員が理由はそれぞれ違いますが、ジョン・ミョンギユ元副会長をかばうものと解釈することができる発言をしたからです。

冬季オリンピック通算で大韓民国は金 24・銀 13・銅 11 のショートトラックは歴代 1 位、スピードスケートは金 5・銀 8・銅 3 で 10 位です。

「無から有を創造した」という言葉も過言ではないジョン・ミョンギユ元副会長の業績は、誰もが認めざるを得ません。15 年間、代表指導者を務めた後は教職と行政を行き来してスケート界の独裁者として君臨して成し遂げた成果です。

しかし、自由韓国党の前身であるセヌリ党が執権した朴槿恵（66）政府や共に民主党が政権交代を成し遂げたムン・ジェイン（65）政府でもジョン・ミョンギユ元副会長の立場は良くありません。通常「エリート体育」が権力親和傾向であることを考えると異例です。

23 日の国政監査はジョン・ミョンギユ前副会長が全・現政府とどんな関係なのかを天下に公開する場でした。

パク・クネ大統領は 2014 ソチ冬季オリンピックで開催国の英雄になったアン・ヒョンス（ロシア名ビクトル・アン 33）の存在に気分が悪いことを隠すことができませんでした。

ジョン・ミョンギユ元副会長は、「アン・ヒョンスをロシアに奪われるようにした元凶」であり「4 大社会悪」の例として名指しされて大変な苦勞をしました。パク・クネ政権の権力序列 1 位チェ・スンシル（チェ・ソウォンに改名・62）にもずいぶん睨まれました。

◆10 月 26 日（金）午後 6 時 体育市民連帯 CNet フォーラム

主催：韓国障害者スポーツの問題点と改善の方向

問題提起：オ・グァンジン教授（韓国福祉大学教授）

討論：ミン・ソリ教授（ナザレ大学外来教授、リハビリテーション学）

場所：体育市民連帯事務室

瑞草区ヒョリョン路 230 スンジョンビル 407 号

せっかく準備した障害者スポーツ関連フォーラムに皆さんの多くの関心と参加をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帶 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 슌죤쵸ン빌 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fgep@jarl.com